

生の健全性と永続性

1) 思想性・世界観・活動法則

ガッツキの激しい子供の精神が見えると不快が高まり持続的な交流を先細らせる。人の足元を見て買い叩くような態度を強め一方向的な利己性と欲求と実現を図ろうとする子供の性質への嫌悪感が、無用なストレスを発生させプラスの発想と力を減退させる。自己と外界を含む利益概念を導出し自他への公平な基準と適用の制御を見せられ、建設的なエネルギーの肯定感と納得性が起こり、プラス基調の信頼と持続の関係を遂げる。相対性の競争感覚が高まりいずれが優れているかという意識で支配され、自他を含む利益概念の探究が萎むと短絡的な動物の強弱感と対立の態度で覆われ、外界への否定感と粗探しの発想と自存策を強めた非社会性を招く。普遍的不変なる観点を抱き自他を含む利益の同一性を世界観と表し基準概念に対し、機能性の側面に具象化し、それぞれの役割や有用性の尊重心が産まれて、根源性と全体像と特定性の認識が出現し、違和感の少ない自他の相関性と制御性の形が産まれる。健全な平等性の意識を根に宿し、妙にガッツいて利益を得ようとする不平等性に外れぬ制御性を有する自律的自制的な反応が起こる。自他を含む利益概念とそこでの自己の性格と配置感が作り出されて、自他との性格と相互補完や協業への意識が進み、違和感の少ないエネルギーの統合性と持続の創造力と社会性と生態系への軌道が産まれる。こうした様子から、「思想性・世界観・活動法則」等という各観点と相関の抽象原理性と体系を産む。

動的 世界観	静的	思想
		動静 活動法則

2) 人間自体の欲求や需要の健全性

健全な感性を根に持ち、発想や思考が起こり、言葉や概念、領域観や世界観が形成され概念性に対し、現況性の感覚を作り精神と身体の制御性に連なる活動法則性を持つ人間性や人間像、生態観が出現する。妙に力任せの欲求と充足性に及ばぬ、自他との良好性を求める感性が起こり、自他との同一利益性の構図を問い、探究心を注ぎながら具体的な形を明示し、根本且つ全体性の基準尺度を引き出しながら、自他という個別特定性の認識を進め、全体性へ及ぶ分化と統合の力に統合されて、自然調和性を遂げる。妙に一方の要望の高まる負荷を外界へ求め、歪な利己性を強めると、不快感と嫌悪感が増し対立性と抵抗感が増し、拒否反応と分断の社会性と人間性を生む。成長性の中に、身体的物理の成長と因果性のみならず、健全な精神や感性の発育や成長の観点を内蔵する必要性が産まれる。消費性と供給性の相関と分配の適正を包含する循環系が作られる。あるべき人間という必要性の適正を探し作る観点をもち、供給性に偏らぬ人間側の意思や欲求の適正が加えられ、消費性と供給性と分配の要素と相関の循環系を生む。分配と成長に対し、人間自体に起こる欲求の出現や必要性という側面の適正を求める認識が備わり供給性と分配性、成長性と分配の適正に連ねる体系が産まれる。

循環系		
消費性	分配性	生産性

動的	静的	消費性 需要性
	供給性	動静 分配

3) 基礎基盤性科目

内包性が自己と外界を含む世界観となり外形性を出現させる。意図する志向や方向、全体像に健全性が起こり自他への性格付けと尊重の意識が現れ、否定感と対立の意識がよりも肯定と協業の意識に回り健全な社会と協業と共生が進む。あまりに物質的因果感覚が高まると自他を含む利益概念の探究や形成が萎みごく周辺の利益に偏った構図と稼働の歪性が起こる。短変数偏狭的な世界観と稼働の強弱を持って自存性が高まり外界からの拒否反応と分断を広げる。特定の領域性のみならず普遍的不変の観点と探求を併せ持つ動静の習慣から健全な感性と観念と精神と身体の相関と習慣が現れる。こうした観点の導出に基礎基盤性科目の主要な関心と創造が産まれる。これを特定性にして良き産出を遂げ持続的相関に及ぶ。妙に力み上から下ろす意識が高まると堂々とした創造が陰り抵抗と拒否反応が増し歪な特定領域に陥り存続が下落する。一方向の力んだガッツキを齎す子供の性質に及ぶ。物的依存と外界の支配従属を基調とする不健全への是正が働き力と活用の歪な過不足とエネルギー不均衡の犯罪性の現象や領域への修復に回る自然律が稼働する。

動的	静的	狭義の普遍的な不変 根本且つ全体性
	特定性 個別性	動静

4) 哲学文化性と科学技術性

妙にマスコミを多用し知名度を求め、中味の希薄な粗雑な生による自存性を遂げる態度への不快感が起こり力と責務の均衡性に及ぶ良好な生の導出と内外との健全な相関と習慣の姿へと向かう。

4-1 ランキング表

「ランキング表と適用」という現象も上述のような観点から感性と観念と精神と身体の相関と習慣の適正を伺うことに及ぶ。一方的な粗雑な表現を持って力んだ創造に無いか。概念設計に適正観があるか。現況性の認識に適正観があるか。良し悪しの判定に及ばせる過程の適正が見られるか。感性と観念と身体の相関と習慣という根本的な観点をもって健全性を問い作る基礎法則を生む。一過的な衝動の高まる広告と健全な理論や世界観を整え現況の観測と評価を表す創造の違いが現れる。民間や公共を区分をする以前の一般性の観点を生む。力の暴走や略奪と

いう心象を産むか。健全な感性から基準性の尺度の問いと探求を重ね自他の良好な利益性に及ぶ概念と領域観をもって自他への公平な適用を図る感性の健全性が映るかどうか。電波力や情報技術力という技術性と影響力に相応した基準性と稼働の適当性にあつて、哲学文化面と科学技術性の釣り合いが生じ、プラス基調の成長性が作られる。科学技術性の用い方に健全な制御性が起こり人間側の需要性に適正を持つ供給と解される。

動的 科学	静的	哲学文化性
		動静 技術

5)年齢性別

「若者、壮年、熟年」等という年齢から出現する生物物理性と精神や感性の状況と一長一短性の一般傾向則が掴み出される。あまりに偏った身体性や精神性を招かぬ完璧的な人間像を普遍的不変の尺度にもって中味を構成する制御を生む。男女という性別から一定の性格の違いが現れる要素も浮かび上がる。普遍的な不変性の観念と時々内外性という状況を抑え最良的な方法の具象性へ及ぶ。

動的	静的	長期性
	中期性	
	短期性	